

Nihonbashi Opera Tokyo 2024

日本橋オペラ 2024

CAVALLERIA RUSTICANA

Domenico Monleone

First performance in Asia

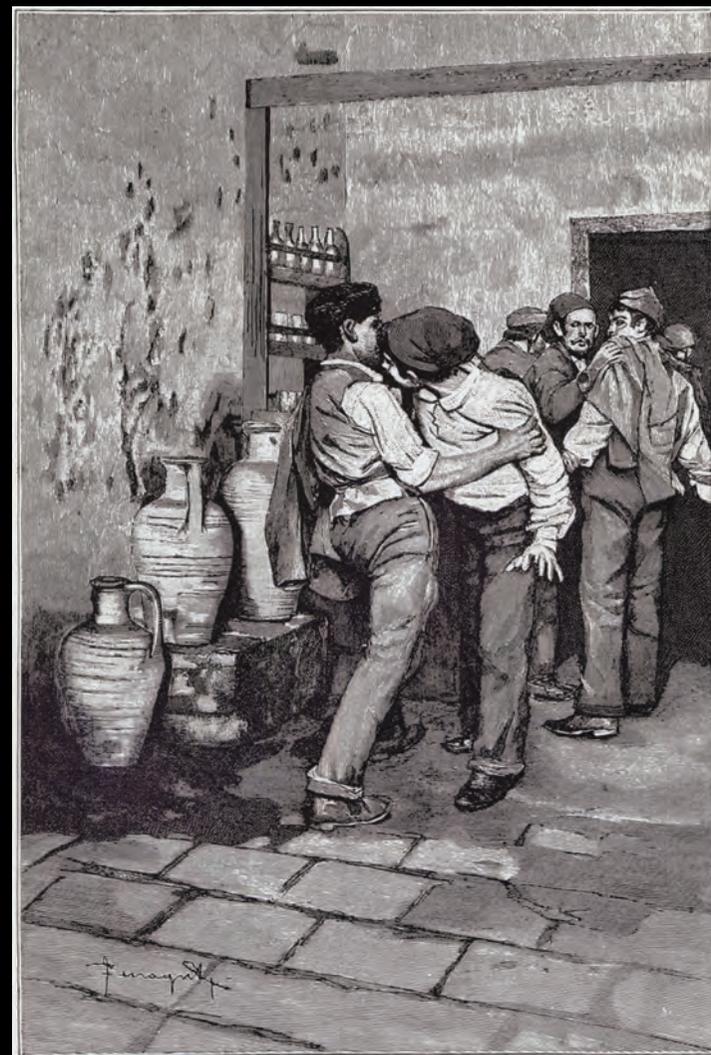


CAVALLERIA RUSTICANA

Pietro Mascagni

歌劇 カヴァレリア ×2 ルスティカーナ

ドメニコ・モンレオーネ(日本初演) & ピエトロ・マスカーニ



Painted by Arnaldo Ferraguti



日本初演シリーズ 4

Wedn Sunday, May 5, 2024 Nihonbashi Theater Tokyo Tokyo

2024年5月5日(日)日本橋劇場



福田祥子

日本橋オペラ研究会(中央区社会教育団体)会長
一般社団法人日本橋オペラ研究会理事長

ご挨拶

本日は日本橋オペラ「日本初演のオペラ」シリーズ第4回「カヴァレリア・ルスティカーナ×2」にお越しいただき、ありがとうございます。日本橋オペラ研究会ではこれまで、長崎が舞台のフランスオペラ「お菊さん」、日本橋出身の川上貞奴の生誕150年を記念した「貞奴姫」、ヴェルディ「グスターヴォ三世」の3つの日本初演を行いました。本日は二つの「カヴァレリア・ルスティカーナ」を上演します。一つは名作オペラのマスカーニ作曲「カヴァ」(1890年初演、上演時間1時間10分)、もう一つがマスカーニの15歳年下のモンレオーネ作曲「カヴァ」(1907年初演、上演時間43分)で、こちらが日本初演となります。作品解説は後のページをご覧ください。2022年当研究会の例会で、マスカーニと同じ原作の同名のオペラが存在することが報告され、上演を計画しました。といっても楽譜を手に入れることは大変困難で、イタリアの地方の図書館にあることを探し当て、ミラノ在住の私の友人に交渉していただき、ようやくコピーを手に入れることができました。そのあと1年をかけて修復・修正をして、稽古を重ねて本日の公演となりました。このオペラは近年では、1998年アルバニア、2001年にフランスで上演されていますが、いずれも演奏会形式でした。つまり本日の公演は初演時以来117年振りの舞台上演、蘇演となります。ちなみに1907年のアムステルダムでの初演は、本日と同じくモンレオーネとマスカーニのカヴァ×カヴァの上演で、大成功したと伝えられています。しかしその成功を知ったマスカーニは、モンレオーネはバクリだからと裁判を起こし、それ以来モンレオーネの「カヴァ」は上演禁止となっています。それから1世紀の時が過ぎ、今日マスカーニの「カヴァ」は、レオンカヴァッロの「パリアッチ」(道化師)とセットで、世界中で「カヴァ・パリ」として上演されています。しかしこれは、マスカーニにとって決して幸運な状況とはいえません。つまりカヴァは、パリアッチの前座として評価されることが多かったのです。そういう意味でも、本日の「カヴァ×カヴァ」公演は、マスカーニの「カヴァ」を、より楽しむためにも、また本来のマスカーニの価値を知るためにも、意義深いと考えます。お客様にとっても、とかく難解なオペラの筋ですが、本日は同じ筋で2回楽しめます。また本日使用されるモンレオーネのボーカルスコアは、後日ペトルッチ楽譜ライブラリーで無料公開されます。本日の公演がきっかけとなり、世界中で、もちろん二人の作曲家の母国イタリアでも「カヴァ×カヴァ」が上演されることを望みます。なお、本年10月13日(日)銀座プロッサムホールで、「日本初演のオペラシリーズ5」として、ベートーヴェンの「レオノーレ」(1905年初稿)の上演を予定しています。

一般社団法人日本橋オペラ研究会顧問

馬淵明子氏:美術史家、日本女子大学名誉教授、ジャポニズム学会会長。これまで、国立西洋美術館館長、独立行政法人国立美術館理事長、文化審議会委員、日本女子サッカーリーグ理事長などを歴任

田隅靖子氏:ピアニスト、京都市立芸術大学名誉教授、元京都コンサートホール館長、京都府文化賞特別功労賞受賞

高松富二子氏:国際ソロプチミスト宝塚元会長、高松コンストラクショングループ取締役名誉会長
高松孝之氏夫人

岡田恭芳氏:医師、医学博士、医療法人愛育会理事長、聖マリアンナ医科大学臨床教授

シュテファン・メラール氏:ピアニスト、指揮者、前ウィーン国立音楽大学教授、ウィーン・ワグナー音楽院教授、ウィーン国際ピアニスト協会会長

木村 啓氏:弁護士、ニューヨーク州弁護士、弁護士法人第一法律事務所パートナー



福田祥子 (Shoko Fukuda) 演出・ソプラノ／サントウツァ役

大阪音楽大学ピアノ科卒業。大阪芸術大学大学院声楽専攻修了。東京二期会オペラ研修所本科首席修了、優秀賞受賞。これまで、ワルキューレ、ジークフリート、神々の黄昏、トリスタンとイゾルデ、さまよえるオランダ人、タンホイザー、アイダ、蝶々夫人、椿姫、ドン・カルロ、トゥーランドット、トスカ、イリス、オテッロ、イル・トロヴァトーレ、仮面舞踏会、エフゲニー・オネーギン、パリアッチ、お菊さん等にそれぞれ主役級の配役で出演。『圧倒的にして鮮烈な歌声と存在感。生まれながらのブリュンヒルデ』(音楽現代)と批評を受ける。日本人としては稀有の本格的ワグナーソプラノでありながら、ヴェルディ、ブッチーニといったイタリアオペラまで、広範囲のレパートリーを有する貴重な存在である。ウィーンとバイエルンの両国立歌劇場で研修を受け、近年はスタラ・ザゴラ国立歌劇場(ブルガリア)などで、蝶々夫人、トスカの主役として度々出演、絶賛されている。また日本各地をはじめ、オーストリア、ドイツ、ブルガリア、チェコ、トルコ、イスラエル、フィリピンなどで、リサイタルやオーケストラと共演をしている。東京二期会、関西二期会各会員。日本橋オペラ会長。一般社団法人日本橋オペラ研究会理事長。



佐々木 修 (Osamu Sasaki)／指揮

青森県出身。武蔵野音楽大学卒業。オーストリア政府奨学生。モーツァルトウム音楽大学指揮科最優秀卒業。カラヤン、チェリビダッケなどの巨匠に師事。モーツァルトウム音楽大学常任指揮者をつとめる。1979年カラヤン国際指揮者コンクール入賞。1982年東洋人として初めてザルツブルク国際モーツァルト週間で指揮「心から自然でしなやか、新鮮なモーツァルト指揮者」と好評を受け、国際モーツァルトウム財団よりパウムガルトナーメダルを授与される。1984年ベルリン・ドイツ響を指揮してドイツデビュー。帰国後、日本各地のオーケストラや合唱を指揮。またNHK-FM等のパーソナリティ、タモリの音楽は世界だ!等の音楽番組制作、映像・CD・WEB制作、AI特許、女性のためのモバイルコンテンツ「ルナルナ」の創設、開発に携わるなど、マルチなタレントで活躍。(株)マエストロ代表取締役。日本橋オペラ常任指揮者。一社)日本橋オペラ研究会理事。



追川 礼章 (Ayatoshi Oikawa)／ピアノ

1994年生まれ。埼玉県立浦和高等学校卒業後、東京藝術大学楽理科を経て同大学大学院ソルフェージュ科を修了。2歳からヤマハ音楽教室で学び、6歳から作曲を始める。現在は歌手の伴奏をメインに全国各地で演奏活動を行う。室内楽ではこれまでにミュンヘンフィルハーモニー管弦楽団コンサートマスター、ローレンツ・ナストゥリカ氏、NHK交響楽団のメンバーらと共演を重ねる。テレビ朝日《題名のない音楽会》を始めとするTV・ラジオにピアニストとして多数出演。これまで作編曲&ピアノで参加したCDの多くがメジャーレーベルから発売されており、2022年にはNHKラジオ深夜便の歌として自身が作曲、小椋佳が作詞した林部智史「花に約束」が選ばれる。

村上敏明 (Toshiaki Murakami) テノール／トゥリッドウ役



国立音楽大学声楽学科卒業。文化庁在外研修員他の奨学金を得て、2001年より2007年までイタリア・ボローニャに留学。2002年に、オルヴィエート・マンチネッリ劇場にて「リゴレット」マントヴァ公爵でヨーロッパデビュー。藤原歌劇団「ラ・ボエーム」「ルチア」「仮面舞踏会」、新国立劇場「椿姫」「蝶々夫人」「愛の妙薬」「カルメン」等に主演し、常に最大級の賛辞を受けている。第9回マダムバタフライ世界コンクール優勝のほか、15の国際声楽コンクールで優勝または上位入賞。2004年には、第40回日伊声楽コンクール第1位、第35回イタリア声楽コンクール・シエナ大賞と、国内2大タイトルを獲得し話題を集める。2012年より、NHKニューイヤーオペラコンサートに12年連続出演。平成16年度五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。八王子コミュニティーオペラ芸術監督。勝浦歌劇団総監督。藤原歌劇団団員。人気実力ともに日本を代表するテノール歌手として、活躍の幅を広げている。

寺田功治 (Koji Terada) バリトン／アルフィオ役



東京音楽大学声楽演奏家コース卒業。英国ギルドホール音楽演劇学校から奨学金を受け大学院修士課程オペラコース修了。ネザーランド・オペラ・スタジオ研修生修了。これまでに小澤征爾音楽塾プロジェクト、及びサイトウ・キネン・フェスティバルにて小澤征爾氏と共演。アイルランド・ウェックスフォード・フェスティバル・オペラではこれまでに数々の公演に出演し、ヨーロッパ初上演になったケヴィン・ブッツ「サイレント・ナイト」英国中佐役で出演。第11回コンセール・マロニエ21第1位。第7回エレナ・オブラストワ国際声楽コンクール第3位。第85回日本音楽コンクール声楽部門第2位。第37回飯塚新人音楽コンクール第1位。

巖淵真理 (Mari Iwabuchi) メゾソプラノ／ヌンツィア役 (モンレオーネ)



国立音楽大学ピアノ科卒、同大学院オペラコース修了。新国立劇場オペラ研修所第1期修了。文化庁芸術在外研修員としてイタリアに留学。ジェノヴァ・カルロフェリーチェ劇場アウディトリウムシーズン公演及びサンタマルゲリータ・リグレサマーフェスティバルオペラ公演に出演。これまでに「アイダ」アムネリス、「イル・トロヴァトーレ」アズチーナ、「ドン・カルロ」エボリ公妃、「蝶々夫人」スズキ、「ノルマ」アダルジーザ他。ヴェルディ「レクイエム」、ベートーヴェン「第九」他ソロを務める。ポンティンブレア及びヴィアレージョ国際声楽コンクール第二位。二期会会員。

森山京子 (Kyoko Moriyama) メゾソプラノ／ルチア役 (マスカーニ)



国立音楽大学卒業。文化庁派遣芸術家在外研修員としてイタリア・ミラノへ留学。ドイツ・ライプツィヒ歌劇場と2シーズン契約。イタリア・ベルガモドニゼッティ歌劇場、ルーマニア国立歌劇場に出演。新国立劇場、藤原歌劇団、日本オペラ協会、びわ湖ホールプロデュースオペラ、東京室内歌劇場、東京芸術劇場、全国共同制作プロジェクトオペラなどに多数出演。新国立劇場開場20周年記念特別公演「アイダ」ではアムネリス役で急遽出演し好評を得た。他、野田秀樹演出「フィガロの結婚～庭師は見た」、日本オペラ「源氏物語」(世界初演)などに出演。NHKニューイヤーオペラコンサート、NHKFMに出演。藤原歌劇団団員。日本オペラ協会会員。

森井美貴 (Miki Morii) ソプラノ／ローラ役 (モンレオーネ)



大阪音楽大学卒業、同大学専攻科修了。第34回飯塚新人音楽コンクール第一位、文部科学大臣賞、海外研修費を授与しイタリア・ミラノに短期留学、研鑽を積む。第47回なにわ芸術祭新人賞、第17回KOBE国際音楽コンクール声楽C部門最優秀賞、第13回大阪国際音楽コンクール第三位、第28回宝塚ベガ音楽コンクール宝塚演奏家連盟賞、第26回摂津音楽祭リトルカメラリアコンクール奨励賞、等多数受賞。大学在学中に佐川吉男音楽賞奨励賞を受賞した「椿姫」でオペラデビュー後、「ラ・ボエーム」ミミ、「道化師」ネッダ、「メリーウィドウ」ハンナ、などを演じオペラを中心に活動を広げる。NHK-FM「リサイタル・ノヴァ」に出演。関西二期会準会員。

片野田名帆子 (Nahoko Katanoda) メゾソプラノ／ローラ役 (マスカーニ)



鹿児島県指宿市出身。鹿児島国際大学短期大学部音楽科卒業。同大学専攻科音楽演奏コース修了。独立行政法人大学評価・学位授与機構認定学士(音楽学)取得。洗足学園音楽大学大学院修了。これまでに「カルメン」タイトルロール、「カヴァレリア・ルスティカーナ」ローラ役、「リゴレット」マッドレーナ役、「こうもり」オルロフスキー役等に出演。二期会オペラ研修所マスタークラス修了。二期会準会員。鹿児島を拠点に活動する声楽、ピアノ、サクソフォンによる音楽ユニット『あいもこいも』メンバー。

川ノ上 聡 (So Kawanoue) バリトン ブラジ役 (モンレオーネ)
アンサンブル (マスカーニ)



鹿児島県出身。国立音楽大学声楽学科卒業。二期会オペラ研修所修了。平野忠彦氏に師事。これまでオペラでは『フィガロの結婚』フィガロ役、『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモ役、『こうもり』フランク役などに出演。またミュージカルにも出演している。喜劇から悲劇まで役を細かく演じる歌声と芝居に好評を得ている。



沼田真由子 (Mayuko Numata) ソプラノ／アンサンブル
武蔵野音楽大学、同大学院修了。オペラ『ホフマン物語』(オランピア)、『魔笛』(パミーナ)、『カルメン』(ミカエラ)、『ロメオとジュリエット』(ジュリエット)他、宗教曲のソリスト、コンサート等に出演。「コール・プルニエ」、「子ども参加型オペラ・バンビーニ」講師。二期会BLOC“Liebeslieder”メンバー。二期会会員



指出麻琴 (Makoto Sashide) ソプラノ／アンサンブル
国立音楽大学声楽専修卒業、歌曲ソリストコース修了、同大学院修士課程オペラコース修了。学部卒業時に卒業演奏会出演。大学院オペラ『皇帝ティートの慈悲』セルヴィリア役で出演。二期会オペラ研修所65期修了。二期会準会員。クラシックの演奏活動だけでなく、ラウンジシンガー、ボイストレーナーとしても活動している。



藤崎真由 (Mayu Fujisaki) ソプラノ／アンサンブル
国立音楽大学 声楽専修卒業。千葉県出身。14歳でY's companyのオペラ合唱団に入団後、声楽を学ぶ。これまでに飯沼友規、福井由美香、今野順子の各氏に師事。2021年度オペラ研究会本公演にてフィオルディリーゼ役を演じた。オペラでは持ち前の明朗な性格を活かした演技を得意とする。現在は声優の道を志す。



宍戸茉莉衣 (Marie Shishido) ソプラノ／アンサンブル
 東京藝術大学卒業。これまでオペラ『フィガロの結婚』スザンナ、『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージ、『魔笛』パミーナ、『奥様女中』セルピーナ、『こうもり』アデーレ、『不思議の国のアリス』アリスなどのヒロイン役を演じ、宗教曲の分野でもソプラノソリストを務める。二期会会員。



後藤奈々 (Nana Goto) ソプラノ／アンサンブル
 9歳より声楽を始め、これまで屋久綾乃、落合美和子各氏に師事。桐朋学園大学音楽学部主催成績優秀者による声楽コンサートに出演。昨年12月、山梨県富士吉田市ホテル鐘山苑にてクリスマスコンサートを開催。アートギャラリーやサロンカフェ等でのコンサートも行っている。現在桐朋学園大学音楽学部3年に在学中。



梅野杏珠 (Anju Umeno) メゾソプラノ／アンサンブル
 17歳より声楽を始める。現在は桐朋学園大学4年に在籍。現在は学内での演奏会などを中心に活動中。また、早稲田大学 Seiren Musical Project にてミュージカルの舞台にも出演している。



源本かのん (Kanon Minamoto) メゾソプラノ／アンサンブル
 東京都出身。桐朋学園大学音楽学部附属子供のための音楽教室にて12歳から声楽を始める。桐朋女子高等学校音楽科を卒業、現在桐朋学園大学音楽学部4年に在学中。



高橋みのり (Minori Takahashi) ソプラノ／アンサンブル
 中央大学経済学部卒業。社会人を経て東邦音楽大学大学院、同大学ウィーンアカデミー修了。東京国際芸術協会および国際芸術連盟新人オーディション合格。第4回東京国際声楽コンクール愛好家部門第2位(1位なし)。多数のコンサートやオペラに出演。声楽を故白石敬子、武藤直美、片岡啓子、望月哲也各氏に師事。



山本雄太 (Yuta Yamamoto) テノール／アンサンブル(トゥリッドゥアンダー)
 秋田県出身。福島大学人間発達文化学類芸術創造専攻に打楽器専攻として入学、2年時に声楽へ転向。同大学院人間発達文化研究科修了。二期会オペラ研修所第64期マスタークラス修了。第21回秋田県青少年音楽コンクール声楽部門金賞受賞。日本トスティ歌曲コンクール2023第5位入賞。二期会準会員



町村 彰 (Akira Machimura) テノール／アンサンブル
 東京大学大学院修士課程修了。永井宏氏に指揮法を、青木洋也、大山大輔、T. プファイファーの各氏に声楽を学ぶ。過去にJ.S. バッハ『マタイ受難曲』『クリスマス・オラトリオ』福音史家、W.A. モーツァルト『コジ・ファン・トゥッテ』ドン・アルフォンソ、『レクイエム』テノール/バスソリストなどを演奏。M-1 グランプリ 2021-2023 一回戦出場(敗退)。



佐保佑弥 (Yuya Saho) テノール／アンサンブル
 大分県出身。これまでにG. ドニゼッティ『愛の妙薬』ネモリーノ役、G.F. ヘンデル『メサイア』、L.v. ベートーヴェン『ミサ・ソレムニス』テノールソロを務める。また、劇団四季主催ミュージカル『ノートルダムの鐘』にクワイヤとして参加。新国立劇場合唱団コンサートメンバー。東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。



種子島史時 (Fumitoki Tanegashima) テノール /アンサンブル
 神奈川県出身。桐朋学園芸術短期大学音楽専攻声楽専修卒業。声楽を小野弘晴氏に師事。第32回全日本Jr. クラシックコンクール大学生の部全国大会入選。オペラでは「カルメン」(レメンダード)「ノルマ(フラヴィオ)」「仮面舞踏会(判事、召使)」「トゥーランドット(パン)」等出演。



原田 光 (Hikaru Harada) バリトン／アンサンブル
 東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。同大学院音楽研究科修士課程声楽専攻修了。大学院在学中には奏楽堂にて藝大第九～チャリティーコンサート vol.6～にてバリトンソロで出演。オペラ、宗教曲、歌曲と幅広く活動している。昨年8月にはセイジ・オザワ松本フェスティバル室内楽部門リートデュオにて出演。



鈴木 薫 (Kaoru Suzuki) バリトン／アンサンブル
 山口県出身。野田学園高等学校を経て、東京藝術大学音楽学部声楽科4年在学。第32回日本ドイツ歌曲コンクール入選。声楽を白岩洵、甲斐栄次郎、大西宇宙、故長谷川顯、櫻田亮の各氏に師事。



杉瀬芳斗 (Yoshito Sugise) バリトン／アンサンブル
 国立音楽大学卒業、オペラソリストコース修了。現在同大学院修士1年オペラ・コースに在籍。これまでに声楽を須藤慎吾、福井敬の各氏に師事。ウィリアム・マッテウツィマスタークラス受講、ロベルト・フロンターリマスタークラス受講。



田尻大貴 (Taiki Tajiri) バリトン／アンサンブル
 東京藝術大学音楽学部声楽科バス専攻卒業。東京二期会オペラ研修所第64期本科修了。演奏会にて、「Cosi fan tutte」ドン・アルフォンソ役、「Don Giovanni」騎士長役などを務める。これまでに、声楽を南迪子、岩津整明、勝部太、永井和子、発声を田口昌範の各師に師事。



高橋悠貴 (Yuki Takahashi) バリトン／アンサンブル
 1992年08月10日生まれ。やまと国際オペラ協会会員。2014年 玉川大学芸術学部パフォーマンス・アーツ学科卒業。2019年 桐朋学園大学音楽学部・声楽専攻卒業。2024年1月21日にやまと国際オペラ協会主催『DON CARLO』に出演。～チャリティーコンサート vol.6～にてバリトンソロで出演。オペラ、宗教曲、歌曲と幅広く活動している。

モンレオーネ作曲『カヴァレリア・ルスティカーナ』 あらすじ

春の夜は、シチリアの村を甘く穏やかに支配する。月は屋根や木々の上で高く輝いている。深夜、トゥリッドゥはローラの部屋の窓の下で情熱的なセレナーデを歌う。その様子を通行人が目撃していた。復活祭の夜明け、遠くから羊飼いたちの歌が聞こえて来た。人々と春の饗宴に、復活の賛歌が響き渡る。これはマスカーニをオマージュした、モンレオーネの「太陽賛歌」だ。村の広場の居酒屋では、トゥリッドゥの母マンツィアが開店の準備をしている。そこにサントウツァがやってくる。彼女は、昨夜帰ってこなかった婚約者のトゥリッドゥのことで来たのだった。マンツィアは「息子はフランコフォンテ村にワインを仕入れに行った」と答えるが、サントウツァは「昨夜トゥリッドゥをここで見た人がいる」と、思わず涙がこみ上げる。そこに馬車屋のアルフィオが村人を従え、景気良くやって来る。アルフィオは昨夜、帰宅途中に二人組のチンピラに襲われたが、稲妻のように立ち回り、押さえつけてやったと自慢するアリアを歌う。教会からオルガンが聞こえてくると、一同は勇敢なアルフィオを讃えながら教会に入る。アルフィオはマンツィアに、トゥリッドゥを夜明けに見かけたと言う。サントウツァはアリア「トゥリッドゥが兵隊で行く日」で、兵隊に行く前にトゥリッドゥとローラは婚約していたが、帰って来た時、ローラは金持ちのアルフィオを結婚していた。トゥリッドゥは私との愛でそれを忘れたが、悪女ローラは私に嫉妬して、トゥリッドゥを私から奪い取った。とマンツィアに切々と訴える。マンツィアが教会に入ると、入れ替わりでトゥリッドゥが現れ、サントウツァは、昨夜どこにいたかを問う。フランコフォンテ村に行っていたと答えるトゥリッドゥだが、昨夜の目撃者の話が出て動揺を隠せない。そこにローラがトゥリッドゥのセレナーデをロズさみながら登場する。気まずいトゥリッドゥ。サントウツァとローラによる口撃が白熱する。ローラが教会に入ると、サントウツァとトゥリッドゥは喧嘩を再開、さらなる修羅場となる。サントウツァはこのオペラのサブタイトルである「呪われた復活祭」と叫び、トゥリッドゥはサントウツァを押し倒して教会に入る。放心状態のサントウツァの所にアルフィオが現れる。サントウツァは決心して、アルフィオの妻であるローラとトゥリッドゥが、よりを戻して密会を繰り返していると告げる。教会からラテン語の賛美歌が聞こえて来る。サントウツァは懺悔し、アルフィオは復讐を誓う荘厳なコンチェルタートとなる。復活祭のお祭りが始まり、村人は「4月は恋の季節!」と歌う。トゥリッドゥは皆にワインをおごり、愛するローラへの気持ちを歌う。そこにアルフィオが現れる。トゥリッドゥはアルフィオにワインを勧めるが「お前のワインには毒が入っている」と冷たく断られる。ただならぬ雰囲気ブラジと女達は立ち去る。残ろうとするローラに対して、アルフィオは「出ていけ!」と命令する。しばしの沈黙の後、トゥリッドゥはアルフィオの耳を噛む。これがシチリアの決闘を求めるしきたりなのだ。アルフィオは退場し、男達も従う。マンツィアが現れる。トゥリッドゥはマンツィアに、兵隊に行った時のように抱きしめておくれと乞い、サントウツァをよろしく頼む、もう一度キッスしておくれ、さようならと言いつつ決闘会場に向かう。ただならぬ気配にブラジとローラが現れたとき、舞台裏から「トゥリッドゥが刺された!」という悲鳴が聞こえる。短い後奏で幕となる。

マスカーニ作曲『カヴァレリア・ルスティカーナ』 あらすじ

前奏曲につづき、舞台裏でトゥリッドゥが情熱的な「シチリアーノ」を歌う。教会の鐘が鳴り幕が上がると、そこはシチリア島の小さな村。復活祭の朝。村人たちの合唱「オレンジの花は香り、ひばりは歌う」が、明朗かつ爽やかに歌われる。村人が立ち去ると、サントウツァが浮かない顔色で現れる。彼女の婚約者のトゥリッドゥは、かつてはローラと恋仲だった。しかし彼が兵役についている間に、ローラは馬車屋のアルフィオと結婚していた。そこで仕方なくトゥリッドゥはサントウツァと婚約したのだが、彼はローラのことを諦め切れない。そのことがサントウツァは不満でならない。サントウツァはルチアに、トゥリッドゥがどこか尋ねる。ルチアは、彼は酒を仕入れに行ったと答えるが、サントウツァは昨夜この村で彼を見かけたという人がいると言う。すると鞭を盛大に鳴らしながら、馬車屋のアルフィオがやって来る。景気のいい馬車屋の生活と、愛妻ローラを称える「駒が勇んで、鈴が鳴って」というソルティータを歌い始める。つづいて教会からオルガンと復活祭を称える合唱が聞こえ、舞台にはサントウツァとルチアだけが残る。ここでサントウツァは、有名なアリア「ママも知るとおり」を歌う。彼女はローラへの嫉妬と、彼への思いが届かないことを嘆く。そこへトゥリッドゥが帰って来る。サントウツァは、彼が昨夜どこにいたかを厳しく問い詰める。すると舞台の裏から、ローラが歌う陽気なストルネッロ、「グラジオラスの花よ」が聞こえて来る。ローラはいかにも平静を装い、サントウツァとの口喧嘩がはじまる。ローラは教会に入っていく。サントウツァはトゥリッドゥに、どうか見捨てないでと彼に懇願して引き止めようとするが、怒ったトゥリッドゥは彼女を突き飛ばし、ローラの後を追って教会に入る。サントウツァが、呪ってやると泣き伏しているところへ、ローラの夫アルフィオが通りかかると、完全に平静さを失った彼女は、ローラとトゥリッドゥの道ならぬ恋を喋ってしまう。初めて事の真相を知ったアルフィオは、血の気の多いシチリア人らしく、復讐の誓いを叫びながら去る。これを聞いて彼女はハッと我に帰り、後悔の念に駆られる。ここで有名な、単独でもしばしば演奏される、「間奏曲」が流れて来る。間奏曲が終わると教会の鐘が鳴り、村人たちがぞろぞろと出て来る。トゥリッドゥは、恋のために、幸福のためにと乾杯の歌「酒を称えて」を歌う。一同が楽しそうに騒いでいるところへ、暗い表情のアルフィオがやって来る。トゥリッドゥがアルフィオにワインを注ごうとすると、アルフィオは冷たく、君の酒は飲みたくないと断るので、二人は口論になる。そしてとうとうトゥリッドゥは、アルフィオの右の耳を噛んでしまう。これはシチリア島では、決闘の申し込みの合図である。トゥリッドゥは一時の感情に駆られて決闘を申し込んだことを後悔するが、ときは既に遅しである。トゥリッドゥは酒に酔った風を装いながら、ルチアの前に跪くと、「さようなら、お母さん」というアリアを歌う。ここで彼は、サントウツァのことをよろしく頼む、母を愛していると言いつつ、慌しくその場を去る。急を聞き駆けつけたサントウツァが現れ、音楽がクライマックスに達したとき、遠くから女の叫び声が聞こえる。「トゥリッドゥが殺された!」サントウツァは悲鳴を上げて倒れ、ルチアも呆然と立ち尽くす。音楽は暗く激しく盛り上がり、悲劇の幕が降りる。

《作品解説》

ピエトロ・マスカーニ（1863-1945）が、イタリアの作家ジョヴァンニ・ヴェルガ（1840-1922）による短編小説『カヴァレリア・ルスティカーナ』（1880年出版「田舎の騎士道」といった意味。以下単にCAVA）とその戯曲（1884年初演）に基づきオペラを作曲、ソニー音楽出版社主催の第2回1幕物オペラ・コンクールで圧倒的な支持を受けて優勝、1890年に初演され、一躍オペラ界の寵児となったことは、あまりにも有名なアメリカンドリームならぬ、イタリアンドリームでした。この成功を見た若い作曲家は色めき立ち、1892年の第3回同コンクールでは61作品、1903年の第4回同コンクールでは実に234作品の応募がありました。しかし音楽の神ミューズは残酷で、それらの応募作品の中でほぼ唯一歴史に残って今日上演されるのは、マスカーニのCAVA以外には、第3回で落選したレオンカヴァッロの「パリアッチ」（道化師）だけです。今日CAVAは、その「パリアッチ」と同時上演される機会が多く、世界中で「カヴァ・バリ」として、イタリアにおけるヴェリズモ（リアリズム文芸運動）の典型的作品として親しまれています。

その第4回のコンクールに落選した作品が、本日日本初演されるドメニコ・モンレオーネ（1875-1942）の「カヴァレリア・ルスティカーナ」です。このオペラは、原作者ヴェルガの承認も得た上での作曲でしたが、コンクール事務局は楽譜を審査する以前に、同原作、同名という理由で失格としました。しかし、この落選したオペラに興味を持ったオランダの興行主が、1907年アムステルダムでモンレオーネとマスカーニの2つのCAVA、つまり本日も同じプログラムのCAVA×CAVAを上演したところ大成功しました。これはその後短期間のうちに、イタリア、フランス、ハンガリー、オーストリア、アテネ、コンスタンティノープル、ロンドンで合計25回公演されたことから判ります。ところがこの成功を知ったマスカーニとソニー出版社は、モンレオーネのCAVAはパクリだからと、上演禁止を求めて裁判を起こしました。貧乏作曲家のモンレオーネには弁護士を雇うお金も戦う気力もありませんでした。斯くしてモンレオーネのCAVAは上演禁止となり、歴史から消え去りました。

実際にこの2つのCAVAを音楽した感想としては、マスカーニの「パクリ」という主張もある程度理解できます。しかしモンレオーネ側に立って見ると、むしろ「オマージュ」といべきかと思えます。同じ原作ですから、ストーリーや登場人物が同じことは勿論ですが、マスカーニの長大なシチリアの自然と人々を描いた前奏曲を、モンレオーネは、彼の感じる全く別な、でも素晴らしいシチリアの自然と人々を描いています。この前奏だけでも名曲です。しかしその場面の最後の合唱は、正にマスカーニのもう一つのオペラ「イリス」の太陽賛歌そのものなのです。これにはマスカーニもカチンと来たと想像します。モンレオーネのCAVAは全体が43分と短く、物語の進行が早いのが特徴です。ある面では、原作である短編小説をより具現化したとも言え、現代にマッチした作品です。

なお表紙の絵はCAVAに困んだ、アルナルド・フェラグティ（1862-1925）の「決闘への招待」です。シチリアの決闘の申し込みは、相手の「耳を噛む」しきたりがあります。金持ちの馬車屋のアルフィオがマスカーニに、殺されると判っていて決闘を申込みトゥリッドゥがモンレオーネに思えてくるのは不思議です。

さあ、これから世界中で上演されるであろうCAVA×CAVAの幕が、117年ぶりに上がります！

日本橋オペラ2024

「日本初演のオペラ」シリーズ 第4回

歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」×2

作曲：ドメニコ・モンレオーネ作曲（日本初演）

作曲：ピエトロ・マスカーニ

原作：ジョヴァンニ・ヴェルガ

イタリア語上演・日本語字幕付／ピアノ伴奏+打楽器

2024年5月5日（日）14:00開演 日本橋劇場（日本橋公会堂4F）

演出・公演監督／福田祥子

指揮／佐々木 修

ピアノ／追川礼章 打楽器／天野佳和

《配役》

～モンレオーネ & マスカーニ～

村上敏明／テノール／トゥリッドゥ 福田祥子／ソプラノ／サントウツァ

寺田功治／バリトン／アルフィオ

～モンレオーネ～

巖淵真理／メゾソプラノ／ナンツィア 森井美貴／ソプラノ／ローラ

川ノ上 聡／バリトン／ブラジ

～マスカーニ～

森山京子／メゾソプラノ／ルチア 片野田名帆子／メゾソプラノ／ローラ

《アンサンブル》

沼田真由子／ソプラノ

指出麻琴／ソプラノ

藤崎真由／ソプラノ

宍戸茉莉衣／ソプラノ

後藤奈々／ソプラノ

梅野杏珠／メゾソプラノ

源本かのん／メゾソプラノ

高橋みのり／メゾソプラノ

山本雄太／テノール

町村 彰／テノール

佐保祐弥／テノール

種子島史時／テノール

原田 光／バリトン

鈴木 薫／バリトン

杉瀬芳斗／バリトン

田尻大貴／バリトン

高橋悠貴／バリトン

舞台監督／菅野 将

照明・舞台／（株）フルスペック

衣裳／てしー ヘアメイク／リュクエミール

稽古ピアノ／鈴木架哉子、松岡なぎさ、吉田サハラ

モンレオーネの字幕©日本橋オペラ研究会、マスカーニの字幕©藤井宏行（オペラ対訳プロジェクト）

TOYOBO



Korino.I

医療法人
小池医院

Anytime
healthcare
consulting

